

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 中村 紳一郎

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

「実験動物」と「動物実験」について、適切な理解を促す。獣医学科においては獣医師国家試験、動物応用科学科においては実験動物技術者1級の資格試験に合格できるためのレベルを教授する。動物実験委員長として、全学の教育に関わる動物実験に係る福祉を所掌する。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
実験動物学	動物応用科学科	必修	2	159
実験動物学	食品生命科学科	選択	2	34
実験動物学	獣医学科	必修	3	145
比較動物学	獣医保健看護学科	必修	2	79
総合獣医学	獣医学科	必修	6	142
実験動物学実習	動物応用科学科	選択	3	56
実験動物学実習	獣医学科	必修	2	133
実験動物学実習	獣医学科	必修	4	138

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

実験動物学が、種々の科目の寄せ集めであるため、担当学科、年次に加え、将来的な資格試験の有無に応じて、基礎的な内容（特に解剖学、生理学）の復習・確認を行いながら、講義・実習を進めていく。イヌ、ブタなどは他科目で学習する機会があるため、実験動物としての特質が理解できるようにし、他科目で学習する機会の少ないげっ歯類、ウサギ、非ヒト霊長類の特質を理解することに重点を置く。実験動物の管理手法、施設の管理手法、ハンドリングなどは写真や動画を示し、実務内容を織り交ぜながら、理解を深める。法令などへの理解も必要であり、「浅く、広く」の学習科目であることを理解させる。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

種々の用途の動物の中で実験動物がどのような位置づけの動物なのか、将来のキャリアで実験動物に関わることの有無とは関係なく、動物の専門家として、的確に理解するための教育を実現したい。それを理解するために必要な、動物への倫理、福祉への考え方、動物の生物学的特性、遺伝的・微生物学的・環境の統御、飼育管理方法などについて、事前課題学習、講義の受講、レジュメあるいは講義録画を用いた復習、小テストを通して反復学習する。義務教育ではないので、自ら学習する意思のないものに無理強いすることはできるだけ行わない。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

特に対応していない。

(2) ICTの教育活用

有

講義の録画動画の共有、各種実験動物のハンドリング、施術方法の動画共有、実習で実験動物の解剖アプリを用いた学習を行っている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

授業の最初に、前回の授業の振り返りを行って、復習をしている。各講義について、研究室の学生へ、他の科目での学習内容と重複していないか確認する。

(2) 学生の理解度の把握

B

小テストを講義内に、講義資料を見ずに行う。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

C

大学生であること自体が、自学自習する立場を現している。教員からどうということではない。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

学生から質問があれば、適宜、対応している。

(5) 双方向授業への工夫

C

特に行っていない。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

総合獣医学で過去問題と、最近の実験動物学のホットな内容を教授する。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

スライドの写真・動画を多くした。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

特になし。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

改善は予定していない。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組
各回の冒頭に、前回の復習をする。重要な点の重点学習。講義の最後の回、総復習を行う。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特になし。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

ほぼ全部、参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

他学の実験動物学教員との交流、情報交換を行う。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。